



信頼できる受入支援機関の紹介により 外国人労働者を採用し生産力アップへ

JAバンク新潟では、生産者の経営課題解決のために「ビジネスマッチング」を通じた支援に取り組んでいます。取り組んだ生産者とサポートしたJA担当者、それぞれに想いや成果をうかがいました。



代表理事

駒形 永幸さん

八色しいたけ事業協同組合

南魚沼市茗荷沢1473-25

平成23年設立

生産品目

シイタケ



「厚いにも、ほどがある」をキャッチフレーズにした、肉厚・大型の「八色しいたけ」を共同生産する。JAみなみ魚沼の支援のもと設立し、国産広葉樹のチップに米ぬかや小麦ふすまを加えた菌床の製造・培養、シイタケの選別・包装・出荷を集約化した。菌床からシイタケを栽培している生産者は11名。発生ハウスは120棟あり、生産量は年間約1,500トン。新潟県で生産されている生シイタケの約7割を占める。魚沼きのこのGAP認証、国産安心きのこ認証、JGAP認証を取得している。



県内外の出荷先に合わせて、規格ごとに包装(バックセンター)

丁寧な教育・フォロー体制で 信頼できる人材の採用へ

「インドネシアから来日以来、どの人も真面目に働いてくれて、とても助かっています。グローバルネクストさんは来日前の教育も、働き始めてからのサポートも手厚く、いまは皆さんが週1回オンラインで日本語講座を無料で受けていて、日本への理解を深めてくれることがありがたいです」と駒形さん。2年前からカンボジア人を採用していたため、職場側の受け入れもスムーズに進んだ。インドネシアの料理を作りましたといって差し入れをくれたり、社員が山登りに連れていったりと、お互いに異文化交流も楽しみながら、雇用の確保につながっている。



写真中央はグローバルネクスト事業協同組合 理事長の桑原 隆さん

従業員ともお互いに
楽しく文化交流して
いますよ！



菌床センター



分厚さと大きさが人気の八色しいたけ

ビジネスマッチングのポイント

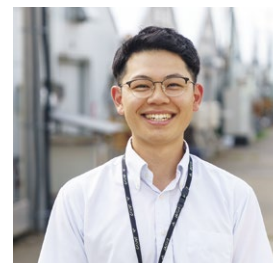
- 販売が堅調に伸びるなか、
人手不足・雇用確保が課題に

生シイタケは原産地表示ルールの厳格化に伴って国産と謳えるものが減少し、八色しいたけへの引き合いが増加。包装ラインの増設などの生産強化は行っているが、シイタケは個々の形が異なるため、袋詰め作業は人の手で行うしかない。しかし、地方では雇用確保が難しくなっており、2年前から外国人労働者としてカンボジア人5名を採用していた。この先、増産を目指すにはさらに人手が必要となるのが直近の課題となっていた。

人手不足の解決策として 外国人労働者支援機関に繋ぐ

相談を受けたJAバンク新潟県信連では、特定技能外国人の受入支援機関である「グローバルネクスト事業協同組合」を紹介。農業との相性がいよいよインドネシアの人材を10名採用することになった。内訳は、通年雇用が5名、他の農業法人の農繁期に合わせたローテーションを想定するシェア雇用が5名。うち男性2名は菌床製造に従事、女性はシイタケの包装工程を担当している。

外国人労働者雇用もご相談ください



JAバンク新潟県信連 農業融資担当
加藤 卓さん

定期訪問での会話のなかで、人手不足の悩みをうかがい、アジアの人材と日本を丁寧に繋いでいるグローバルネクストさんを紹介させていただきました。マッチングした双方がメリットを感じている様子がうかがえてとても嬉しいですね。この事例を通して、外国人採用も身近なJAに相談できることを知っていただけたらと思います。地域の法人同士で外国人労働者をシェアし、それぞれの農閑期ごとにローテーションするという新しい雇用方法が、今後新潟モデルになっていったらいいな、と思っています。